

2021年4月26日

あおぞら投信株式会社

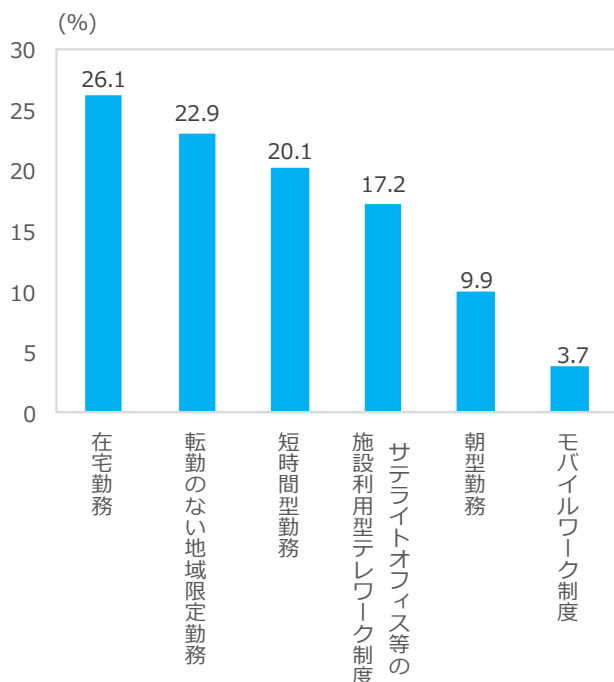
# 「ひとごとを 自分ごとになるものや 会社通じて 社会にありき」

ESGの中でも、S (Society: 社会) の中のひとつには労働社会という柱があります。労働社会で人が働くことを支える意味では、これからの社会における“人と企業の関係”であり、“人の生活と勤労”の関係であり、これまでにない人事制度が必要になってきていると思います。すなわち、変化の対象がすべてに亘っているということであり、全体としての今後の社会の目指すことは何か？という問いかけであり、その中で企業は何を果たすためにあるのか？であり、その中で個々の人々は何を目指すのか？という大切な問いかけになるのでしょう。

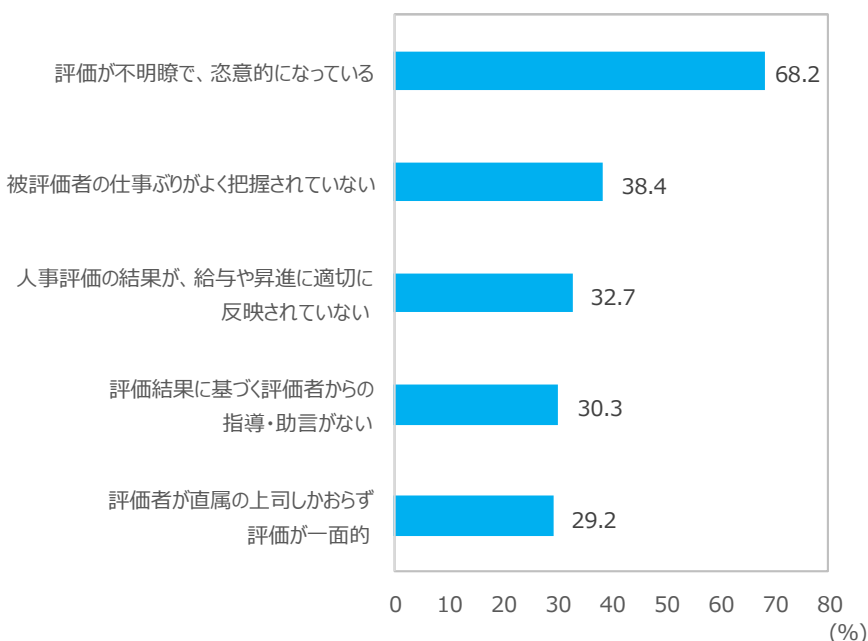
つまり個人にとって社会とは何か？という問いかけとの表裏にもなるのです。社会を引っくり返すと会社になります。個人にとって会社とは何か？という問いかけも同じように生じるのです。ESGの中のG (Governance: 企業統治) という会社の規律があり、個人にとって、地球の中では、E (Environment: 環境) を意識しつつ、Gとの関係を保ちながらSのために存在することに意義があるのではないのでしょうか。このことについて、多様性をもった我々が考え行動していくことが大切なのです。今から20年前、私が会社の人事の部署を兼務して人事制度改革に取り組んでいる時に、自覚のない状況を鑑みて、このままでは人事部という名前を、他人事(たにんごと)部に名前を変えた方が良くはないかと提案しました。人事制度改革で目指すことを『ひとりひとりの力を活かす』と設定して、そのためには人事の考え方の新たな整理が必要であり、コミュニケーションをより良くするにはどうすればよいのかを考えていました。昨年の新型コロナウイルスの影響で直面した一番の課題はここにあると思います。すなわち対話の方法です。ESGは決してお題目ではなく、ひとりひとりの実践の中にあることなのです。だからこそ、一人の力では限界があっても、二人、三人と繋がることで大きな力を生み出すことが出来ると思うのです。

柳谷俊郎

新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態について



人事評価制度に満足していない理由



出所：厚生労働省労働経済分析(平成30年版)のデータを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>